

備後国府跡の出土品⑥ 中国からもたらされた陶磁器



ツジ遺跡出土の中国の陶磁器



備後国府跡出土の中国の陶磁器は
府中市歴史民俗資料館に展示中！

備後国府跡からの出土品には、貿易でもたらされた、青磁や白磁と呼ばれる中国製の陶磁器があります。これらは、9世紀から11世紀にかけて、福岡の大宰府などを窓口として輸入されるようになりました。

この時代の中国陶磁器は、大宰府周辺や平安京に集中して出土しており、他は中央政府と直結する国府や寺院からわずかに出土するのみです。

ふちゅう歴史散歩Vol.53で紹介した、平安時代の緑釉陶器や灰釉陶器は、実はこうした優秀な中国陶磁器への需要と影響を強く受けて作られた国産品なのです。

その後、11世紀後半から12世紀後半になるとその状況が一変し、日本各地でこの時代の中国陶磁器の出土数が激増します。この輸入増加は、宋（現在の中国）が外圧に対抗するため、積極的な外貨獲得を図ったことが原因の一つとされています。

備後国府跡から大量に出土する中国の陶磁器は、府中と世界史、古代から中世へのつながりを研究するうえで、重要なものとなっています。

—市民レポーターが府中の魅力を投稿します—

ふちゅう Sai 発見！

高校生編 その18

「季のむら」



投稿者（文と写真）

府中高校2年生
高上彩音さん



府中駅から府中本通り商店街を通り、呉服雑貨屋「チロル」の前の細い路地を50m進んだところにある、カフェ・雑貨屋などが集まった複合施設「季のむら」。

古民家「萩原印刷」を改装して作られた、昔懐かしい雰囲気を感じさせるお店です。入って突き当たりはカフェ雑貨で、左側はギャラリー季の音です。

そのギャラリー季の音では、写真家の田原康丞さんが8月29日まで写真展を行っていました。そこに展示されていた写真は、季のむらに関わっている方々の素の表情を引き出した作品でした。

カフェはこじんまりとしていて、アットホームな雰囲気を感じさせてくれます。皆さんもぜひ、訪れてみてください。

平成27年9月1日(1204)号

広報ふちゅう

(毎月1・15日発行)



ご意見、ご感想をお寄せください。

編集発行：府中市人事秘書課

〒726-8601 広島県府中市府川町315

☎0847-43-7111 (代表)

☎0847-43-7194 (広報担当)

HP <http://www.city.fuchu.hiroshima.jp/>

HP 《携帯版》 <http://city-fuchu-m.plimo.jp/>

※右のQRコードからアドレスを読み取ることができます。

